

群 教 七	G11 - 03
	平29.265集
	学級活動

生徒が自発的・自治的に取り組む 学級活動の工夫

—— 「パーフェクト学級プロジェクトカード」を活用した
生徒主体の話合い活動を通して——

特別研修員 櫻井 大起

I 研究テーマ設定の理由

群馬県の平成29年度学校教育の指針では、特別活動の指導の重点として、「輪番制による計画委員会などを組織し、学級で話し合うべき必要感・切実感のある議題を設定する」や「児童生徒自身が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動を取り入れる」と示している。

本校の生徒は、一小学校一中学校による連携型小中一貫校という環境で、学校行事に一生懸命に取り組み、学習面では、家庭学習をこつこつと頑張るなどのよさを持っている。一方で、友人関係が固定されやすく、新たに人間関係を広げて交流を深めようとすることに消極的な傾向が見られる。また、学年で実施した「学級力アンケート」では、学校生活の課題に対して自分たちで主体的に改善していこうとする意識がやや薄い傾向にあることも分かった。

そこで、学級活動において、計画委員会を中心として「パーフェクト学級プロジェクトカード」を活用した話合い活動を行い、生徒が主体となり仲間と交流し合いながら学級の課題やその改善策について考え、実践に移す場を設定していく。これらの活動を積み重ねていくことにより、生徒が課題解決に向けて自発的・自治的に学級活動に取り組むことができるようになると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

課題解決に向けて自発的・自治的に学級活動に取り組む生徒を育成するために、次の二つの手立てを設定して実践を行った。

手立て1 生徒が主体となって企画・運営・話し合いができる場の設定

手立て2 「パーフェクト学級プロジェクトカード」の活用

手立て1は、学級会を企画・運営する計画委員会の事前準備や本時の話し合いの場の設定についてである。計画委員会については、生活班を基に組織し、輪番制で生徒全員が学級会の企画・運営を経験できるようにする。また、次の学級会を担当する計画委員に運営面での留意点の引き継ぎや議題設定等について話し合う「引き継ぎ会」を実施することで、自分たちで学級会をより良くしていこうという意識を高められるようにする。議題設定については、計画委員が「学級力アンケート」の結果から、学級のよくできている部分と改善が必要な部分を把握し、必要感・切実感のある内容を設定していく。更に、計画委員が「パーフェクト学級プロジェクトカード」の「各自の考え」を基に、同じ傾向の考えを持つ生徒同士で話し合えるよう班編制を工夫し、より主体的で活発な話し合い活動ができるようにする。

手立て2では、「パーフェクト学級プロジェクトカード」の活用により、生徒一人一人が、課題の意識化→話し合い→集団決定（→自己の実践）までの見通しを持って話し合い活動ができるようにする。特に、事前に議題と提案理由を確認し、「パーフェクト学級プロジェクトカード」に自分の考えを記入しておくことで、課題意識を持って話し合い活動に参加できる。また、計画委員も話し合いの進め方を見通しておくことで、円滑に進行することができる。

このような二つの手立てを講じることで、自分たちの課題を自分たちで解決しようとする生徒の自発的・自治的な取組につながると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「引き継ぎ会」を実施したことで、生徒が計画委員の意義や役割を確認し、学級会の事前準備や運営、事後の振り返りの集約や分析を主体的に取り組む姿が見られた。また、決められた内容以外の仕事でも、計画委員同士で臨機応変に判断して分担し、協力して行う様子も見られるなど、生徒の自発的・自治的な取組につながったと考える。
- 各自が事前に「パーフェクト学級プロジェクトカード」に記入した考えを基に、計画委員が同じ傾向の考えを持つ生徒同士の班を編制したことで、「グループでの話し合い」の場面において、一人一人が具体的な意見を出せていた。更に、普段関わりの少なかった生徒同士の交流も促進され、話し合いがより活発になり、全員が前向きに学級の課題について考えることができた。
- 「パーフェクト学級プロジェクトカード」の活用によって、生徒一人一人が話し合いの目的や活動の流れを把握し、焦点を絞って話し合うことができた。
- 各生徒が改善策、提案等について、自分の考えを事前に「パーフェクト学級プロジェクトカード」に記入しておくことで、課題意識を持って話し合いに臨んでいた。また、話し合いの時間を十分確保することができ、仲間の考えのよさに着目しながらじっくり意見交流することができた。

2 課題

- 話し合いのめあてを常に意識し、焦点を絞った話し合い活動ができるよう、生徒の活動を見守りつつ、教師の適切な助言や称賛を交えることが大切である。
- 集団決定の場面では、生徒が主体的に考え、判断し、折り合いを付けて決定していけるよう、話し合いのためのツール等を効果的に活用していくことも必要である。

実践例

1 議題名 「学級力をさらに向上させる2組の学級行事を決めよう」(第2学年・2学期)

2 本題材について

本題材は、学校生活の改善や行事への取組を考える学級会を通して向上してきた学級力を、更に高めるために、自分たちで学級行事を企画して実行するための話し合い活動である。事前の活動として、計画委員会が提案した議題と提案理由、企画案を考える条件等を発表した後、各自で「パーフェクト学級プロジェクトカード」に企画案とPRを書き込むようにする。計画委員会がその内容を基に、似ている企画を考えた生徒同士で班編制をしたり、企画のジャンルをグループ分けしたりして、本時の話し合いの進め方を確認していく。

本時では、自分の意見を発表し、友達の意見の良いところを意識しながら、班での話し合い、全体での話し合いを通し学級行事を決めていく。このような、学級力を高めるための行事を決める活動を通して、互いに協力し合いながら、自分たちの課題を自分たちで解決しようとする生徒の自発的・自治的な取組につながることをねらいとしている。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	「パーフェクト学級プロジェクトカード」を活用し、友達の意見を大切にしながら主体的に考え、判断して話し合い、学級力を高める学級行事を決定することができる。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるより良い生活づくりについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。
	集団活動や生活につ いての知識・理解	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方について理解している。
時間	主な内容	主な学習活動
事前	問題の発見 議題の選定 問題の意識化	<ul style="list-style-type: none"> 学級力アンケートを行い、学級の現状を客観的に捉え、その結果を基に計画委員会が議題を決定し活動計画を立てる。 「パーフェクト学級プロジェクトカード」に各自が企画案と理由を書く。 各自の考えを基に話し合いの班編制をし、活動計画を練り直す。
本時	出し合う 比べ合う まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 自分の企画とPRを班の中で発表し合い、班で提案する企画を考える。 各班で出された意見を基に、計画委員会が考えた条件を満たしているか、学級力を高める企画内容になっているか、焦点を伝え比べ合う。 学級の行事を決める。
事後	実践 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 次回の学級会で行う、学級行事に必要な班編制、ルール、準備するものについて考えていくことを理解する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本学級の生徒が、学級力を更に向上させるための行事やPRを考え、決めていく際に、課題意識と見通しを持って話し合い活動に臨むことや、友達の意見のよさに気付き、主体的に話し合い活動ができるようにしていくことが大切である。そこで、以下のように二つの手立てを具体化した。

手立て1 生徒が主体となって企画・運営・話し合いができる場の設定

- ① 運営面の改善や学級力アンケートを分析、議題設定について話し合う、計画委員の「引き継ぎ会」を実施する。
- ② 「パーフェクト学級プロジェクトカード」の各自の意見や課題を基にした班編制をする。

手立て2 「パーフェクト学級プロジェクトカード」の活用

課題の意識化→話し合い→集団決定（→自己の実践）までを生徒一人一人に見通しを持たせるカードを活用して話し合い活動をする。

4 授業の実際

(1) 事前の活動

これまでに生徒は、5月、7月と「学級力アンケート」を実施し、その結果をまとめたレーダーチャートにより「達成力」「自律力」「対話力」「協調力」「安心力」「規律力」の6観点とそれを構成する4つの項目値を参考に、学級の様子を客観的に捉えてきた。計画委員がその結果から話し合いが必要な議題を提案し、「パーフェクト学級プロジェクトカード」を活用しながら、学校生活の改善や、行事への取組を考える学級会を企画・運営してきた（図1）。

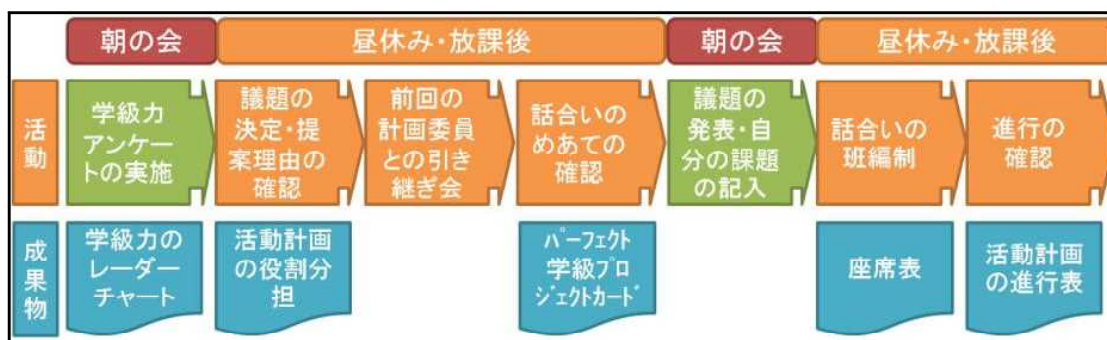


図1 事前の準備活動の流れ

今回の学級会では、計画委員会が、2学期最後に自分たちで学級行事を企画して実行することで、学級力アンケートで伸ばしたい項目が高まり、学級力の更なる向上に繋がると考え、議題を「学級力を更に向上させる2組の学級行事を決めよう」とした。

前回の計画委員との「引き継ぎ会」では、学級会を運営していく上での全体的なことについて、留意点や改善点を各担当から伝え、学級会を自分たちで主体的に進めていこうとする意欲を高められるようにするとともに、仲間とのつながりをより深められる場となるようにした（図2）。



図2 前回の計画委員との引き継ぎ会

「引き継ぎ会」の終了後、担当する計画委員は、学級行事を決定するための条件について話し合った。決定のための条件として、「全員参加」、「学級力を高めるもの」、「班対抗（男女混合）」、「12月に行く」、「学校内の施設を使う」に決まり、議題とそれらの条件を書き入れた「パーフェクト学級プロジェクトカード」を準備した。朝の会を活用し、計画委員から議題と提案理由と条件を発表し、全員が学級行事の企画を記入した。話し合いを円滑にするために、各自の考えを基に、計画委員が同じ傾向の企画を考えた生徒同士で班編制をした（図3）。



図3 話し合いの班編制

また、学級会における役割分担や進行、集団決定に向けてどのようにまとめていくのかなどを検討し、活動計画を作成した。

(2) 本時の活動

本時では、まず、同じ傾向の企画案を考えた生徒同士の班で、企画と理由を発表し合い、班で提案する企画とPRを一つに決め、短冊ホワイトボードにまとめた。班での話し合いでは、カードに友達の意見で良かったところを書くことにより、仲間のよさの発見ができるようにした(図4)。

企画内容を決定するための条件を「パーフェクト学級プロジェクトカード」に記載しておくことで、企画内容のジャンルを決める場面、その中から企画を一つに決める場面で、焦点を絞った話し合いができるようにした。

本時の話し合いでは、スポーツのジャンルから、バスケットボール、卓球、PK合戦に絞り込み、話し合いで様々な意見を出し合った結果、学級行事として「バスケットボール」に決定した。

(3) 事後の活動

前回と同じ計画委員会で、議題「学級行事(バスケットボール大会)を成功させるための準備をしよう」を行った(図5)。話し合いにより、①チーム編成②ルール③準備などの内容が決定した。生徒は、決定した役割分担等を基に、「パーフェクト学級プロジェクトカード」の「自分がやること」の欄に、学級行事の成功に向けての自分の具体的な取組や意気込みを書いていた。実際に「バスケットボール大会を終えて」の振り返りを見ると、「学級力が高まった」、「楽しく協力できた」、「チームの人と仲良くなれた」などの記述がとて多くあった。また、その後の「学級力アンケート」の結果では、第1回と比べ、特に「達成力」、「自律力」、「協調力」、「安心力」が向上した。

5 考察

手立て1では、計画委員会の「引き継ぎ会」を実施したことで、学級会の運営をスムーズに行うことができた。普段は控えめな生徒も積極的に計画委員の司会の役割を果たし、学級会を終えた後の振り返りでは、「頑張ったこと」として、「司会をやり遂げたこと」を挙げており、学級に貢献した達成感や自信に繋がったと考えられる。また、休み時間や放課後の時間を活用して班編制等を行い、教師が助言しなくても計画委員が自発的に取り組んでいた。このような事前の計画委員会の活動を通して、計画委員同士が協力し合いながら、それぞれ自分の役割を責任を持って進んで活動できるようになったと考える。計画委員を経験した生徒は、班や全体での話し合いの場面においても、積極的に意見を出し、活発に意見交流をするようになるなどの変容が見られた。

手立て2については、「パーフェクト学級プロジェクトカード」に示されている流れに沿って話し合いを進めることで、生徒が課題意識や話し合いの見通しを持ち、主体的に考えたり判断したりして集団決定に向けて話し合う様子が見られた。話し合い後に考えた自己の取組や実践・自己評価についても具体的実践に基づいて行うことができた。また、カードを活用して事前に班編制を工夫したことによって、班での話し合いがより活発に行われていた。

学級の課題解決に向け、自発的・自治的に学級活動に取り組む生徒を育成するには、話し合いの経験を積み重ねること、折り合いをつける話し合いのためのツールの活用等、必要に応じて合意形成の方法を工夫していくことが必要である。

図4 パーフェクト学級プロジェクトカード



図5 事後の学級活動の様子